

人文社会学部 人間福祉学科 社会福祉専攻 (平成21年度以降入学生用)

教育目的

社会福祉専攻の教育目的は、人と人との繋がりを大切にしながら、人に対する優しさや思いやりの心を持った人材の育成に取り組むことであり、社会福祉とその関連領域の学問を「人」を対象とした実学と捉え、それらを専門的に学ぶことにより、社会の多様なニーズに応えていく人材の育成を目指している。このため、本学の建学の精神を尊び、和の精神を深く理解し、人を対象とした社会福祉の専門性を実践できるように、必要な知識、技術、価値・倫理を修得することで、人間に対する理解を深め、社会福祉のあり方を考察できる力を養成するとともに、高度な社会福祉専門職としての社会福祉士及び精神保健福祉士国家資格取得に対応した指導をきめ細かく行い、多角的な教育指導のもとに、社会に貢献できる資質能力を併せ持つ心豊かな人材の育成を目的としている。

到達目標

1年次には、聖徳太子の福祉精神、すなわち「心の安らぎを与え、地域に根ざした援助を行う」という福祉観を修得するとともに、基礎的な知識、技術を学び、社会福祉について考える習慣を身につける。2年次には、多くの社会福祉の専門科目を学ぶことで、社会福祉の基本的な知識、技術の修得と社会福祉に対する考え方を身につけるとともに、演習、実習などを通して援助技術の向上を図る。3年次には、社会福祉の知識、技術を一層高め、人間福祉演習（ゼミ）等を通して、社会福祉の諸課題について主体的に研究する姿勢を身につけるとともに、現場実習の経験を重ねることで理論と実践の統合を図る。4年次には、学びの集大成として、各人の研究課題に取り組むとともに、福祉専門職として必要な知識、技術、価値・倫理を醸成させることを目標としている。

履修の仕方

1年次において、講義では現代社会と福祉など、社会福祉に関する基礎知識のほか心理、社会、医学など関連領域について学ぶとともに、演習では社会福祉の仕事などを理解し、実習指導では福祉現場の見学実習を体験するなど、社会福祉への興味や関心が高まるよう履修科目を設定している。2年次からは、社会福祉の専門的知識と技術を修得するため、相談援助技術や高齢者、障がい者、児童などの各福祉論の専門科目を履修するほか、1年次に引き続き援助の実技を学ぶ援助技術演習や実習指導では福祉現場での体験実習を履修する。また、3年次には福祉施設や相談機関などの福祉現場で1ヶ月程度の援助技術実習を履修するほか、自己選択により2年間の人間福祉演習（ゼミ）を履修しながら自らの課題研究の成果を結実させる。なお、社会福祉士に加えて精神保健福祉士の国家試験の受験資格や教育職員免許状の取得を目指す場合は、2年次より計画的な履修が必要である。